

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ことばの たいそう」 教材名「みんなに しらせよう」

2 単元の目標

姿勢や口形、発声や発音に注意して話せる。 相手や伝えたい事柄に合わせ、声の大きさや速さを工夫できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ）	①「話すこと・聞くこと」において、相手や伝えたい事柄に合わせ、声の大きさや速さを工夫している。（A(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

知らせたいことと聞く相手を確認、声の大きさや速さを工夫して伝える。大きい声ほどよいとは判断しない。 学習指導要領のA(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)イを、言語活動の中で確かめる。 年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)イを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教師が短い独自の学校内のお知らせを声量や速さを変えて示す。聞き手は聞き取れた内容を返し、話し手はその反応で工夫する。発声が難しい場合は機器や代読を使い、伝え方の選択を評価する。 おおむね満足できる状況は、相手や伝えたい事柄に合わせ、声の大きさや速さを工夫しているという姿で捉える。使った言葉を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○知らせたいことと相手を決める。声や速さを変えて試す。	学習状況を見て支援する。
	2 （本時）	○聞き手が受け取った内容を返す。反応を基に伝え方を調整する。	知①・思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

相手や伝えたい事柄に合わせ、声の大きさや速さを工夫できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この相手に聞いてもらうには、どんな速さや声にするとよいですか」 【めあて】知らせたいことと聞く相手を確認、声の大きさや速さを工夫して伝える。 〈予想される児童の反応〉 ・近くの友達なら大声はいらない。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この相手に聞いてもらうには、どんな速さや声にするとよいですか」 知らせたい事柄を決め、相手との距離を確認する。声の大きさや速さを変えて話し、聞き手は聞き取れた内容と聞き取りにくかった所を返す。話し手は口の開き方や姿勢も試し、反応を受けてもう一度伝える。発声が難しい児童は機器や代読で伝え方を選ぶ。 〈予想される児童の反応〉 ・近くの友達なら大声はいらない。 ・大事なところはゆっくり言いたい。 ・聞く人を見て話すと伝わったか確かめられる。	教師が短い独自の学校内のお知らせを声量や速さを変えて示す。聞き手は聞き取れた内容を返し、話し手はその反応で工夫する。発声が難しい場合は機器や代読を使い、伝え方の選択を評価する。 想定するつまずき：発表の内容を丸暗記させる、全員に同じ大声を要求する。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手や伝えたい事柄に合わせ、声の大きさや速さを工夫している。(発言と学習記録) ◎知① 姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ)(使った言葉・音読や表記の確認)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・聞く人を見て話すと伝わったか確かめられる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「この相手に聞いてもらうには、どんな速さや声にするとよいですか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

